

平成 16 年度総会・春期研修会が開催されました！

去る平成 16 年 4 月 28 日に、青年技術士協議会の平成 16 年度総会・春期研修がきょうさいサロンで開催されました。

総会では、椿谷会長から、当協議会や本研修会の目的とともに、本年度の活動にむけた抱負、9 月に予定されている全国大会に向けた取り組みや協力をお願いなどを含む挨拶がありました。引き続き、服部幹事から、平成 15 年度の活動報告・決算報告、平成 16 年度の活動計画・予算があり、満場一致で承認されました。さらに、天沼幹事から、本年度から当協議会の活動として新設する「危機管理研究会」について報告がありました。その他、地域産業研究会エゾシカ分化会の五十嵐氏から、エゾシカの養鹿事業の創成振興を目的とした書籍「エゾシカ飼うべ」の紹介とともに、「エゾシカを害獣ではなく、家畜化することにより、北海道独自の産業に育てよう」と呼びかけられました。

研修会は、①北海道における先人の技術や取組、②サッポロビール物語、③ミニ・ディスカッションの 3 部構成で進められました。

① 北海道における先人の技術や取組

まず、丹治幹事から、社会基盤整備、農林水産業、産業育成及び科学技術の各分野における総勢 26 名の先人技術者の紹介がありました。

その後、北海道に初めて鉄道防雪林を植林した「大村卓一」（小澤幹事）、雪印乳業の創設者であるとともに酪農学園を創設した「黒沢酉蔵」（佐倉幹事）、北海道に日本初のアスファルト舗装を導入し、たった 1 年で札幌から千歳までの道路を造り上げた「高橋敏五郎」（松澤幹事）、サロマ・オホーツク海のホタテ貝養殖漁業を成功に導いた先人の取り組み（古屋幹事）を紹介し、丹治幹事が「先人技術はインフラ整備や防災事業といった攻めの投資でないものが多

いが、これから北海道をもっと元気にしていくためには新規事業の創設や地域の特質を活かした技術開発が必要であり、我々技術士はその一端を担うべく精進しましょう」との呼びかけでまとめられました。

② サッポロビール物語

続いて、サッポロビール株式会社サッポロビール博物館の霜田館長と長井副館長から講演を頂きました。

まず、霜田館長からは、ビールの起源から現在に至るまでを紹介して頂き、ラガー、ピルスナーやスタウトとは何かといったことやビールと発泡酒の違いなどの解説は、筆者にとっても有益な知識となりました。

次に長井副館長からは、サッポロビール製造技術の歴史（開拓使麦酒醸造所の建設・事業責任者 村橋久成の取り組みやドイツでビール造りを学んだ醸造技術者 中川清兵衛の栄光と挫折等）について紹介され、多くの紆余曲折を経て今日のサッポロビールが存在することがよく分かりました。

最後に、霜田館長から、サッポロビールの今後の企業目標や新開発技術（ドラフトワン等）についての紹介がありました。

その後、喉が渴いたのでミニ・ディスカッションを早く終らせ、懇親会を開催しました。近藤幹事の司会により、平成 15 年度合格者による新入会員の紹介に始まり、ビールを話題とした質疑応答で、大変盛り上がりました。

最後に、霜田館長・長井副館長の多大なる御厚志により、ビールの差し入れと新発売の商品のお土産をいただきましたことを、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

（文責：青年技術士協議会幹事 小澤 直正）